

2024年7月5日

アジア研究図書館

アースターネ・ゴドウス・ラザヴィー図書館・博物館・文書館機構との協力覚書調印について (森本 一夫)	1
U-PARL 第3期を迎えて(菟輪 顕量)	6
新着資料紹介: 令和5年度(2023年度)購入ビルマ語資料について(チンガイリャン)	8
ベトナム語資料を扱う書店・出版社紹介(澁谷 由紀)	11
ある辞典とともにやってきた手紙 (AKMATALIEVA Jakshylyk)	15
アジア研究図書館利用案内	
次号の予定	
編集後記	

編集・発行: 東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門
(RASARL)

〒113-0033

東京都文京区本郷7-3-1

東京大学附属図書館 アジア研究図書館担当

asialib@lib.u-tokyo.ac.jp

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia>

アースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー 図書館・博物館・文書館機構との協力覚書調印について

森本 一夫

(東洋文化研究所／RASARL)

さまざまな機関・研究者が国境をこえて協働し共振するアジア研究の世界に存在感を確立しようとしているアジア研究図書館にとって、国内外の諸機関との協力関係の構築は重要な課題です。さまざまな個性をもつ機関との関係構築が期待されますが、アジアに位置する東京大学の一部としてのアジア研究図書館の立ち位置を考えると、アジア各国所在の外国諸機関との関係構築は、ぜひ進めていきたい課題ということになります。

アジア研究図書館には、これまでも、アジアの機関との公式な協力関係の成果が目に見える形で存在してきました。総合図書館 4 階の開架スペースに 2020 年 10 月の開館時から設置されている台湾漢学リソースセンター（TRCCS）がそれです。TRCCS の書架には、台湾国家図書館が毎年寄贈して下さってきた文献が配架され、利用されています（まことにありがたいことです）。これは 2014 年に東京大学附属図書館と台湾国家図書館との間に結ばれた協定にもとづいており、東大側には選書の権利さえ与えられています。

しかし、設立以前の協定にもとづく TRCCS は、アジア研究図書館にとっては「親の遺産」のようなもので、自ら汗をかい稼いできたものとは言えません。開館から 3 年以上が経ち、そろそろこの方面でも何かがあって然るべき時期にさしかかっていましたが、昨年度末、2024 年 3 月に

その何かがありましたので、ここではその報告をさせていただきます。



図 1：覚書交換にあたり固く握手を交わす

佐川館長とホセイニー機構長

(レザー廟図書館・博物館・文書館機構提供)

言うまでもなく、アースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー図書館・博物館・文書館機構（イラン・イスラーム共和国マシュハド市）との協力覚書への調印がその何かに当たります。では、やや長い名前を持つ先方の機関について紹介するところから話を始めましょう。

「アースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー」という句は、「レザー様にちなむ聖性の敷居」という意味です。「敷居」は日本語で「～先生御机下」というような場合と同じ要領で敬意を込めた婉曲表現として用いられているもので、その意味するところは聖性が宿る廟所ということになります。したがってこの句は、煎じ詰めて言えば「レザー一廟」という意味になります。

レザー様というのはイランで優勢なイスラム教シーア派（細かくいえば十二イマーム・シーア派）の 8 代目のイマーム（指導者）、アリーのことです（有名な初代イマーム・アリーの 6 世の男系子孫に当たります）。アラビア語ではリーダーという彼の称号がペルシア語読みされるとレザーになるという寸法です。他のイマームたちの墓はサウジアラビアのメディナ市かイラクにあるのですが、レザー廟だけは、このイマームが旅先で亡くなったことから（818 年）、イラン東北部に位置するマシュハドに位置しています。いや、より正確に言えば、「（レザーの）殉教の地」を意味する「マシュハド」という名の都市の方が、彼の廟を中心として後追いで成立したということになります。現在のマシュハド市はテヘランに次ぐ国内第 2 位の人口を抱える大都市です。

もともとスンナ派が優勢であったイランがシーア派優勢の国になったのは 16 世紀初めに成立したサファヴィー朝がシーア派化政策を推進して以降のことになりますが、レザーへの崇敬は昔も今もシーア派に限られたものではありません。彼をイマームとしては認めないスンナ派の人々の間でも、預言者ムハンマド一族の重要な一員としてのレザーへの崇敬は広く見られます。したがってレザーの墓は、イランのシーア派化以前、遅くとも 10 世紀後半には墓廟と呼べるような形に整備されていたことが確認できます。以後、多くの人々を惹きつけるレザー廟には、さまざまな形で巨万の富が蓄積されてきました。レザーの墓所を取り巻くように広がる、ハラム（聖所）と呼ばれる廟コンプレックスは、諸王朝の支配層が建てさせた一級建築物の展示場の観を呈しています。また、廟に寄進された不動産はイラン各地に広がっています（かつては現在のイランの領域をこえて分布していま

した）。そして、莫大な寄進財を資本として利用することができる現在のレザー廟は、さまざまな業種の企業を保有するイランでも有数のコングロマリットとなっています。最高責任者たる管財人の職は、国家の最高指導者から直接任じられる、全国的にも注目を集める重要ポストの一つに数えられます。



図 2：廟コンプレックス内の一風景

レザー廟に集積された富は物質的なものに限りません。廟コンプレックスそれ自体とそこに集められた美術品が持つ文化的・芸術的価値、何世紀にもわたって寄進され、購入されてきた書籍類の学術的価値、この歴史ある聖廟に運営の記録・財産保有の証拠として蓄積されてきた文書群が帯びる歴史的価値、さらにはそこで守り伝えられてきた儀礼や慣習など、この廟が蔵する無形の精神的な価値にも恐るべきものがあります。そのうち主として書籍類を収める複数の図書館、美術品・歴史的遺物などを収蔵する複数の博物館、そして膨大な文書類を集める文書館を統括しているのが、今回アジア研究図書館が協力覚書を結んだ図書館・博物館・文書館機構です。下に示すように、今回の協力覚書は主として図書資料・文書資料に関するものなので図書館と文書館についてのみその規模感の一端を伝える情報を記しますが、廟コンプレックス

内に置かれた中央図書館には手稿本だけで 9 万点が、廟コンプレックスに隣接する建物に同じくレザー廟附属のイスラーム研究所と同居する形で入っている文書館には 1,000 万点の文書資料が、それぞれ所蔵されているとのこと。これは、イスラーム圏でも最大規模の図書・文書コレクションを意味すると言えるでしょう。また、図書館の施設も、下の写真でご覧になるように、非常に立派なものとなっています。



図 3：中央図書館前庭

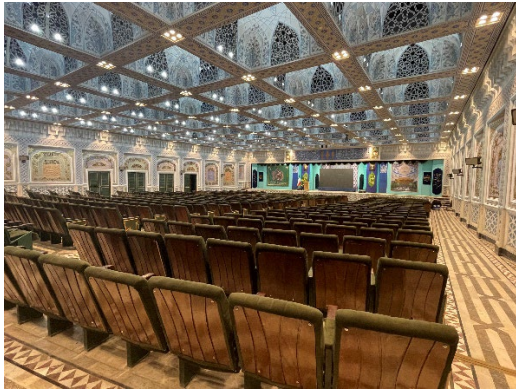


図 4：中央図書館内の講堂



図 5：資料電子化作業見学の一幕

今回の協力覚書調印の話は、2019 年に、当時は主として U-PARL 兼務教員としての立場からアジア研究図書館設立に向けた事業に関わっていた私（イスラーム史・イラン史専攻）のところに、先方から、「東京大学の図書館」との協力関係構築に向けた打診があったところから始まりました。これはまさにアジア研究図書館のためにあつらえたような話だと考えた私は、アジア研究図書館が設立された暁にはぜひ進めたいとお返しし、話は一旦保留となりました。その後、2020 年の開館を経て、アジア研究図書館は名前の上でも実体としても存在するものとなりましたが、しばらくの間は図書館自体の整備の仕事に一杯一杯で、とても協議を再開する状況ではありませんでした。先方を長らくお待たせした上で、関係諸方面との具体的な相談を開始したのはようやく 2023 年に入ってからのことでした。その後、比較的順調に協議・調整が進み、この 3 月にマシュハドの地での覚書調印にいたることができたのは大変嬉しいことです。

これが今回の覚書の内容です：

The Organization of Libraries, Museums and Documentation Center of Āstān Quds Rażavī and the Asian Research Library, The University of Tokyo Library System, The University of Tokyo (hereinafter referred to as the “Parties”), desiring to strengthen the cooperation between the Parties and considering the benefits for each Party arising from joint activities and projects, have reached the following understanding.

The Parties will endeavor to develop and implement joint activities and projects in the fields relevant to the enhancement and updating of the library services provided by the Parties and to the

promotion of intercultural understanding.

The Parties will consider taking up the following forms of cooperation.

Article 1: Sharing Information and Experiences

- 1.1 Exchange of information and experiences relevant to the enhancement and updating of the library services in the physical and virtual domains, including in such fields as development of electronic resources and digital libraries and the conservation and restoration of library resources.
- 1.2 Cooperation between experts and researchers affiliated to or nominated by the Parties in education and research related to such fields as documentation, information science, edition of manuscripts and documents, translation, and publication (hereinafter “relevant fields”).

Article 2: Exchange of Library Materials and Digital Collections

- 2.1 Creation and sharing of digital collections of mutual interest.
- 2.2 Exchange of materials published by the Parties in relevant fields.

Article 3: Cooperation in Human Resource Development

- 3.1 Cooperation in human resource development through mutual visits, internships, and organization of training events.

Article 4: Research Collaboration

- 4.1 Cooperation between experts and researchers affiliated to or nominated by the Parties in the research in relevant fields.
- 4.2 Hosting and assisting qualified

researchers affiliated to or introduced by the other Party during their sojourns to conduct research in the fields of their interests.

Terms & Conditions

The Parties will cooperate on the basis of equality, openness and respect for each other’s rights and traditions.

The Parties recognize differences in their legal statuses, administrative structures and sources of financing. This Memorandum is not intended to create any legally binding obligations and will be carried out in accordance with the laws and regulations applicable respectively to the Parties. The realization of the understanding in this Memorandum is subject to the availability of funds and other resources.

Any differences in the interpretation pertaining to the implementation of this Memorandum will be resolved through consultations between the Parties.

This Memorandum can be amended only by the mutual agreement of the Parties expressed in writing.

This Memorandum will come into effect on the date of the second signature. It will remain in effect for five years or until terminated by either Party upon a written notice to the other Party at least three months in advance.

In order to put the understanding in this Memorandum in practice, each Party designates a representative to discuss possible concrete measures.

今後は、この覚書にもとづく実際の交流をどのように進めていくかが課題となります。第一弾の企画として、今年度末に、かつてのレザ一廟における図書管理・文書管理について立派な研究業績をお持ちの文書研究の専門家に東京に来ていただき、研究

交流の機会を設けることを企画しています。ですが、大事なのはそうした活動をどう継続していくかでしょう。また、公的な組織としての十分な責任体制を担保しながら、この覚書締結による利益をなるべく広い範囲の研究者に開いていくにはどうすればいいか、これも今後の検討課題になります。皆さまのお知恵をいただけると幸いです。

3 月の調印にいたる覚書の作成過程では、学内においてはアジア研究図書館関係者のほかに安全保障輸出管理支援室に特にお手数をおかけしました。お礼を申し上げます。またレザー廟側では、セイイェド・ジャラル・ホセイニー機構長、そして森本のカウンターパートとして交渉窓口を務めて下さったザフラー・タラーイー博士のお二人に特に感謝申し上げます。マシュハドでの調印式には、それぞれ同行者とともに別件で調査に出ていた佐川英治館長と森本が、調査日程の一部を充てて出席しました。そのため当方からの訪問団の人数が増加してしまうことになりましたが、イラン人持ち前の「超おもてなし」(ペルシア語では、敢えて直訳すれば「お客なでなで」となる“mehmān-navāzī”という言葉で表される)の心で受け入れて下さったマシュハドの皆さまにも篤く御礼申し上げます。

なお、RASARL では、今回の覚書調印を記念して、レザー廟やその図書館、博物館、文書館に関する展示を企画しつつあり、それに合わせた講演会を構想していることも申し添えます。

最後に、調印式前日の金曜日を利用してレザー廟の皆さんが企画して下さったエクスカーション中のワンシーンと滞在中のある日のお昼ご飯をお目にかけましょうか。ラマダーン中にもかかわらず実によく飲み食いさせていただきました。まさに「なでなで」の面目躍如です。ただし、食事の方はさすがに 4 人分です。どうぞ誤解のなき

ようお願いいたします。



図 6：エクスカーションで訪れたある参詣地の参籠スペースにて休憩中

(ニーシャープール近郊ガダムガーにて；ガダムガーにはイマーム・レザーの足跡がついた石が祀られている)



図 7：3 月 14 日昼食

(シシュリク、ジュージェ・キャバープ、ゴルメ・サブズイー、ゼレシュクボロウ・パー・モルグ、スィール・トルスィー、ノンアルコール・ビールほか)

U-PARL 第 3 期を迎えて

蓑輪 顕量

(U-PARL 部門長・人文社会系研究科教授)

1. 始めに

東京大学附属図書館アジア研究図書館上
廣倫理財団寄付研究部門(略称 U-PARL)の
第 3 期が始まった。U-PARL が産声を上げ
たのは今からちょうど 10 年前の 2014 年 4
月。アジア研究図書館を設立するために設
けられた寄付研究部門は、ようやく第 2 期
にアジア研究図書館を生み出す大役を終え、
この度、大きく目的を変えて第 3 期を迎え
ることができた。これもひとえに歴代の図
書館長、古田先生、久留島先生、熊野先生、
坂井先生そして関わって下さった特任教員
や研究員、兼務教員の先生方のおかげであ
り、まずはその尽力に感謝したい。

2. 目標

さて、第 3 期の U-PARL は 4 つの目標を
立てている。寄付研究部門として現代社会
が抱える喫緊の問題を解決する提言ができ
ることを目指し、第 1 に「東西融合・文理
融合—Society5.0 における人の生き方を考
える」をテーマとした。今の社会は IT 技術
が進展し、生身の人間との間でせめぎあい
が起きている。そのような中、私たち人間
はどのように IT と関わり、生活していけば
よいのかを問われている。

その生き方を考えるうえで様々な視点が
ありうるが、初年度は昨今、話題になって
いる瞑想を軸に人間にとっての豊かさとは
何かを問うことになった。幸い、兼務教員
の方の中にもこの問題に関心を持って下さ
る方がいて、共同で研究ができることとな
った。第 2 期は各自の関心を中心に東大外

部の人たちとの連携を重視してきたが、今
般は東大内部の先生方との協働に軸足を移
すことになる。多くの最先端の研究者が
いらっしゃる東大であればこそ、内部での
交流は欠かせないという視点をもって活動
したいと考えている。なお、瞑想に関心を
持っている教職員の方をまずは手始めに、
学内フォーラムの形成を視野に入れている。

第 2 の目標は図書館資料のデジタル化で
ある。これは東大全体にとっても大きな課
題の一つであり、総合図書館内に設置され
たアジア研究図書館の活動 (U-PARL がそ
の担い手の一翼になる) の重要なパイロッ
トケースになると期待される。

大学に所蔵される貴重な資料を研究する
ためのデジタル資源化とその公開が求めら
れて久しいが、実際にそれを実現しようと
すると、様々な問題が立ちふさがる。実際
にトライしてみないと見えてこない部分も
多い。図書資料という文系的なものとデジ
タル化という理系的なものとが融合する場
でもあり、文理融合の典型的な例の一つと
なることを期待している。

ところで、写真資料や地図資料などのデ
ジタル化は、撮影は容易にできても公開の
ための障害となるのが権利関係である。そ
のような権利関係を解決しなければ全体が
公開できないという現状を如何にクリアし
ていくのか、その試みを少しずつ始めてい
る。

第 3 の目標がアジア研究図書館の運営で
ある。この目標は第 2 期の事業の継承の部

分である。アジア研究図書館の開館から数えればまだ 3 年が過ぎたにすぎないので、人間に例えればまだ歩み始めたばかりの幼児のようなものである。アジア研究図書館の蔵書資料は地域別に分ければ、中央、東・西・南・北のアジアの全般にわたる。これらの地域の諸言語で記された資料の蒐集のためには、それぞれの地域言語に通曉した研究者が必要である。そこで U-PARL は、アジア研究図書館に設けられている研究開発部門 (RASARL) と協力して選書委員会の一翼を担うことを、本図書館の運営にかかわる重要な業務の一つと位置づけている。

また、第 1 期から第 2 期にかけて貴重な文庫資料の寄贈を受けたが、一日も早く実際に利用できるようにするためには登録も必要であり、その作業を支援することも、第 3 期の運営の一翼となるであろう。

そして、第 1 期、第 2 期からの一番の課題がサブジェクト・ライブラリアン(以降、SL と略記)である。SL は海外、特に欧米の研究者養成を使命とする大学に見られる制度であり、研究者による研究支援を行うというものである。U-PARL の第 1 期の目的はこの SL をアジア研究図書館に設置するものであったが、その設置は第 2 期に達成された。しかし実質的な研究支援はようやく始まった段階である。海外では大学院生が研究を始めようとする際に指導教員以外に SL とも相談し、その時々の研究の動向や研究主題に関する支援がなされるという。また同じような分野を研究している先輩研究者との橋渡しもしてくれるという。この二つの視点から、サブジェクトまたはリエゾン・ライブラリアンと呼ばれるのであるが、指導教員以外の研究者の方から研究支援を受けられるのは学問の継承と発展のために大きな意義を有するであろう。研究者を目指す若者が減少している昨今の現状に鑑みて、この試みが新しい制度として

定着し、大いに日本の将来のために役立つことを願ってやまない。

二つの紛争が世界を悩ましているが、戦争が起きないようにするためにはお互いに顔が見える交流が必要であり、研究者がそのような役割を担うことも可能である。研究者の輩出にこの SL が一役買ってくれることを期待する。

第 4 の目標が社会還元である。U-PARL の研究成果をどのようにして社会に知ってもらいかつ役立てていけるか、という視点からの活動である。総合図書館にはライブラリープラザという空間があり、様々なワークショップ、講演などが開催されている。U-PARL としても、コロナ前と同じように、このスペースを使って一般学生や社会人に向けた企画を行いたいと考えている。

特任の先生方の中にはすでに社会還元の興味深い試みを行ってきた経験を持つ者がいるので、今までとは一味異なった社会還元の企画が生まれそうで内心、嬉しく思っている。また、一般の方に向けた紙媒体の企画も考案中であり、今まで以上に多くの人の耳目に触れるような形式の何かが生まれるであろう。

3. 終わりに

U-PARL の第 3 期は順調に滑り出しつつある。わずか 3 カ月間に具体的な案件を作り出してくれたのは、ひとえに特任の先生方が目標にそって肉付けをしてくださったからである。

学内において多くの学生そして教職員がその存在を認知し、我々の活動を、それぞれの研究に役立ててくれるようになれば、それは何よりもの喜びである。

新着資料紹介

令和 5 年度 (2023 年度) 購入ビルマ語資料について

チンガイリヤン

(東京外国語大学大学院総合国際学研究科博士後期課程)

<はじめに>

アジア研究図書館にはミャンマーの公用語であるビルマ語 (ミャンマー語) 資料の蓄積が少なく、その収集が課題になっていた。その欠を補うべく令和 5 年度 (2023 年度) に購入された資料 14 点について、以下に紹介したい。

<購入資料の一覧>

①မြန်မာ့သမိုင်းမြေပုံများ / သန်းထွန်း. -- နေပြည်တော် : သမိုင်းသုတေသနနှင့်အမျိုးသားစာကြည့်တိုက်ဦးစီးဌာန , 2017 printing. -- (BD0590871X)

『ミャンマーの歴史の地図』。古代から英緬戦争までの各時代の地図。地図とともに典拠資料、有名な歴史的事件やその時代についての解説も収録されている。著者自身や著者以外の人々が作成した地図や絵を収集した本。

②မြန်မာ့မင်းခမ်းတော်များနှင့်

နန်းတွင်းသုံးရွှေထည်ပစ္စည်းများ = The Myanmar royal regalia & royal household articles / တည်းဖြတ်, စုစည်း, စီစဉ်သူ စိန်မျိုးမြင့်. -- 3. ပုံနှိပ်ခြင်း. -- Yangon : Myanmar Heritage Publications , 2022. -- (BD0591185X)

『ミャンマー王室レガリアおよび王室の家財道具』。ミャンマー最後の王、ティパオ・ミンの治世中に、王様に敬意を示す式典が行われる際、ティハサナの玉座の前の

左右に並べられていた王室レガリアの写真記録した本。ミャンマー国立博物館にて展示されているコンバウン朝期の王室レガリアの写真も示されている。

③မြန်မာ့နိုင်ငံရေး လေ့လာဆန်းစစ်ချက် (၁၉၄၈-၁၉၈၈) = Case study of Myanma politics (1948-1988) / ကျော်ဝင်း. -- 2. အကြိမ်. -- [ရန်ကုန်] : တကောင်းစာအုပ်တိုက် , 2022. -- (BD01283700)

『ミャンマーの政治分析』。ミャンマー独立後から 88 年の抗議行動 (1948~1988 年) までのミャンマーの政治史の概要、現代 (2021 年) までに影響されていること等が書かれている。著者はこの本で 2012 年国民文学賞 (政治) を受賞した。

④မြန်မာနှင့် နိုင်ငံတကာဆက်ဆံရေး : ရုရှား၊ ဂျပန်၊ အိန္ဒိယ၊ အမေရိကန်ပြည်ထောင်စု / အလင်းဆက်(IR) ရေးသားပြုစုသည်. -- ရန်ကုန် : ရွှတ်စိမ်းစာပေ , 2021. -- (BD06006650)

『ミャンマーと国際関係 (ロシア、インド、日本、アメリカ合衆国)』。現代のミャンマーの外交政策と世界の強力な国々 (アメリカ合衆国、ロシア、インド、日本) との関係について記述されている。ミャンマーの政治、経済、軍事関与の歴史と現状を他国別に分析した本。

⑤နိုင်ငံရေးအဘိဓာန် / မင်းရွှေမောင် ပြန်ဆိုသည်. -- Yangon : Myanmar Heritage Publications , 2019. -- (BD06007336)

『政治学事典』。Iain McLean と Alistair McMillan による *The Concise Oxford Dictionary of Politics* の翻訳版。

⑥မန္တလေး ၁၃၀၀ပြည့်အရေးတော်ပုံ မှသည်... နယ်ချဲ့တော်လှန်ရေးသို့ / ဝမ်းအိုဝမ်း ကျော်ဝင်းမောင်. -- 2. ကြိမ်. -- ပန်းဘဲတန်းမြို့နယ်, [ရန်ကုန်] : ပန်းမော်စာပေတိုက်, 2008. -- (BB24579767)

『マンダレーの 1300 年革命から独立革命へ』。ミャンマーの独立革命で重要な革命の一つである 1300 年革命のことについて書かれている。この運動を目撃した人々から寄せられた情報が書かれており、当時の貴重な写真も含まれている。

⑦နှစ် ၃၀၀ မြန်မာနိုင်ငံရေးအဘိဓာန် / သန်းဝင်းလှိုင်. -- 2. အုပ်. -- ရန်ကုန် : စိတ်ကူးချိုချိုစာပေ, 2016. -- (BD06011286)

『300 年にわたるミャンマー政治辞書』。300 年にわたるビルマの歴史的出来事と、ビルマ史上の著名な人物を紹介し、組織の歴史的記録をミャンマー文字の順にサブタイトルに分けて執筆・収録した本。第 2 巻。

⑧ကြီးလေးကြီးနှင့်တွေ့ဆုံခြင်း / [interviewed by] သန်းလွင်ထွန်း. -- ရန်ကုန် : Myanmar Heritage : ရွက်စိမ်းစာပေ, 2014. -- (BD06013146)

『偉大な人物 4 名との面談』。国民民主連盟のアウン・サン・スー・チー会長、テイン・セイン大統領、連邦議会の議長の新井・マン氏、国軍の最高司令官であるミン・アウン・フライン將軍など、当時ミャンマーの政治分野で国の未来を形作ることができると見なされる人物と、VOA のミャンマー・プログラムの責任者であるタン・ルウィン・トゥン氏との間の個別のインタビューを記録したもの。

⑨ပြည်ထောင်စုကိုအမွေခွဲကြခြင်း / နေဝင်းနိုင်. --

ရန်ကုန် : The Fifth Pillar, 2018. -- (BD06013521)

『連邦を相続分配する』。ミャンマー民族グループに異なる政治的権利を与えている現在の政治情勢について、民族グループ間の紛争、後で発生する可能性のある問題とそれを防ぐためにどのような政策を講じるべきかが詳細に説明されている。

⑩ပြည်ပပို့ကုန်သွင်းကုန်လုပ်ငန်းလက်စွဲ = Handbook of exporting and importing / တင်မောင်ဝင်း. -- 3. အကြိမ်. -- ရန်ကုန် : အလင်းသစ်စာပေ, 2020. -- (BD06014207)

『輸出入業務マニュアル』。基本的な輸出手続き、販売契約のサンプル、出荷書類の例、送金状 (LC) のサンプル、ミャンマー農産物の設定基準、輸出入活動で見られる一般的な問題、輸出基準、外国の輸出入の説明とビジネス用語などについて書かれている。

⑪ကျေးလက်ရိုးရာ မြန်မာမှုစလေ့များ / ဆင်ဖြူကျွန်းအောင်သိန်း. -- 7. အကြိမ်. -- [ရန်ကုန်] : ပုံနှိပ်ရေးနှင့် ထုတ်ဝေရေးဦးစီးဌာန စာပေဗိမာန်, 2021. -- (BD01156135)

『伝統的なミャンマーの文化・慣習』。昔のミャンマーの社会文化と慣習について書かれている。

⑫ဒီမိုကရေစီ နိဒါန်းကာလ မြန်မာ့စီးပွားရေးမြင်ကွင်း အကျဉ်းအကျယ် : ၂၀၁၃-၂၀၁၉ ရှုမြင်သုံးသပ်ချက် တွေ့ကြုံခံစားမှု / စောနိုင်. -- ရန်ကုန် : လွင်သစ္စာစာပေ, 2020. -- (BD06016767)

『民主主義導入時のミャンマーの経済状況の概要 (2013~2019 年の観察と経験)』。2013 年から 2019 年までの中央銀行、チャット／ドルの状況、ミャンマーの経済インフラへの外国投資、雇用機会、ミャンマーに関連するアジア諸国のレビュー、国内経済、人材のあり方を総合的に振り返

り、論じている。

⑬ ယူနန်-မြန်မာ မီးရထားလမ်း / မောင်ထင်, မိုးဧအောင်. --
Yangon : Myanmar Heritage Publications ,
2022. -- (BD06017577)

『雲南－ビルマ鉄道』。雲南－ビルマ鉄道、中国－ビルマ鉄道の歴史、政治、経済、社会についての基本的なトピックが明確に書かれている。

⑭ မြန်မာနိုင်ငံ ရင်းနှီးမြှုပ်နှံမှုလုပ်ငန်းလမ်းညွှန် /
ဦးသန်းဝင်းရွှေ. -- ရန်ကုန် : Wisdom House
စာအုပ်တိုက် , 2019. -- (BD06018955)

『ミャンマー投資ビジネスガイド』。ミャンマーへの投資を行うビジネスマン向けの本。現行法に則って実践する際に参考になるよう、分かりやすく説明されている。

*編集協力：澁谷由紀（U-PARL 共同研究員）

ベトナム語資料を扱う書店・出版社紹介

澁谷 由紀

(法政大学兼任教員、U-PARL 共同研究員)

1. はじめに

本稿はベトナム語資料をベトナム国内で購入する場合に利便性の高い書店を紹介するものである。ハノイ市、ホーチミン市の中心部には、それぞれの街のランドマークといえるような、新刊書を扱う大型書店が存在する。一方、(澁谷 2023)で紹介したように、ベトナムには日本の神田神保町と同じような、自然発生的に生まれた書店街と、計画的に整備された「官製の」書店街が存在する。また E コマース(電子商取引)の普及により、オンライン書店も生まれている。

2. 新刊書を扱う大型書店

ハノイ市では、チャンティエン通り(phố Tràng Tiền)の44番地に店舗を構えるベトナム図書株式会社(Công ty Cổ phần Sách Việt Nam / SAVINA)が代表である。



ベトナム図書株式会社。(2023年6月)

この書店は1956年に国家印刷局(Nhà in Quốc gia)から分離独立した中央図書発行局(Sở Phát hành sách Trung ương)に起源を持つ歴史ある書店で、2016年に株式会社化された(Công ty Cổ phần Sách Việt Nam n.d.)。2000年代はじめより変化がないのではないと思われる内装の地味な店内だが、研究書の品ぞろえが良く、探していた本が見つかることが多い。

ホーチミン市では、グエンフエ通り(đường Nguyễn Huệ)40番地のグエンフエ書店(Nhà sách Nguyễn Huệ)、レロイ通り(đường Lê Lợi)60-62番地のサイゴン書店(Nhà sách Sài Gòn)など、市図書発行株式会社(Công ty Cổ phần Phát hành sách Thành phố Hồ Chí Minh / FAHASA)の系列の書店が知られている(Công ty Cổ phần Phát hành sách Thành phố Hồ Chí Minh n.d.)。



グエンフエ書店。多目的な文化発信基地として人々を惹きつけている。入口には菓子の屋台が出ていた。(2024年3月)



サイゴン書店。2000年代初頭には多くの研究書が店頭に並んでいた。いまはほぼ雑貨店となっている。(2023年8月)

3. 「官製の」書店街

ベトナム国内で出版された研究書を購入するのに最適な場所は、「官製の」書店街である。ハノイ市の2月19日通り(phố 19-12)には「ハノイブックストリート(phố sách Hà Nội)」があり、ホーチミン市のグエン・ヴァン・ビン通り(đường Nguyễn Văn Bình)には「ホーチミン市ブックストリート(đường Sách TPHCM)」がある。これらの書店街では、販売・流通を担う書店のみならず、出版社自身が自らの出版物を扱う店舗を出している。このため、出版社さえわかっているならば、お目当ての本をどの店舗で探せばよいのかすぐにわかる。また各店のスタッフも商品をよく把握しているので在庫の有無を確認しやすい。

ホーチミン市ブックストリートでは、児童書やおもちゃ、使用済み記念切手など土産物も販売されている。また「秋季書館」(Quán sách Mùa Thu)など、古書・貴重書を扱う書店も軒を並べる。同店ではウェブサイトも運営しており(<https://quansachmuathu.vn>)、探したい本があれば連絡をとることができる。



ハノイブックストリーの入り口。(2023年3月)



ホーチミン市ブックストリーの入口。観光名所のホーチミン市郵便局に隣接する。アイスクリームの移動販売の自転車が出ていた。(2024年1月)



元旦のホーチミン市ブックストリートは、子連れの家族で大混雑だった。ベトナム人の教育熱と読書文化の伝統が感じられる場所である。(2024 年 1 月)



「秋季書館」の外観。1975 年以前の出版物も扱う。(2024 年 1 月)

4. 自然発生的に生まれた書店街

ハノイ市ではチャンティエン通りの裏手のディンレー通り (phố Đinh Lễ) に書店が集中している。一方、ホーチミン市では 5 区のチャン・ニャン・トン通り (đường Trần Nhân Tôn) が古書店街として有名である。



ディンレー通りの書店のうちの一つ。(2023 年 3 月)



チャン・ニャン・トン通りの古書店。古い雑誌などを扱っている。(2023 年 12 月)



チャン・ニャン・トン通り。各店には漫画本などが山積みになっている。(2023 年 12 月)

5. 「独立系」古書店

複数の書店が 1 か所に集まる書店街と異なり、住宅街の中に存在する書店もある。一例として、ホーチミン市 10 区のバイクマー通り (đường Bạch Mã) 19 番地にある「(新書&古書店一昔の本) (Nhà Sách Cũ và Mới - Sách Xưa)」は研究書の品ぞろえが豊富であり、ウェブサイト (<https://sachxua.vn/>) も充実している。



「新書&古書店一昔の本」の外観。住宅街の中にある。(2023 年 12 月)



「新書&古書店一昔の本」の店内。店主に依頼すれば本を探してくれる。(2023 年 12 月)

6. オンライン書店

メコン・コム商業・サービス株式会社 (Công ty Cổ phần Thương Mại và Dịch vụ MEKONG COM) の運営する Vinabook.com (<https://www.vinabook.com>) などがある。本人認証にベトナム国内の電話番号が必要な書店もあることに注意が必要である。

[参考文献]

澁谷由紀. 2023. 「ベトナムの出版物をめぐる状況—書店街の風景と図書館 OPAC から—」(第 25 回図書館総合展における宇戸優美子氏との共同ポスター報告「現代東南アジアにおける出版に関する諸問題 —ベトナムとタイを中心に—」の一部) <https://www.libraryfair.jp/poster/2023/150>.
Công ty Cổ phần Phát hành sách Thành phố Hồ Chí Minh - FAHASA. n.d, “Hệ thống nhà sách.” Accessed July 1, 2024. <https://fahasag.com.vn/he-thong-nha-sach>.
Công ty Cổ phần Sách Việt Nam n.d. “Giới thiệu.” Accessed July 1, 2024. <https://savina.com.vn/gioi-thieu>.

ある辞典とともにやってきた手紙

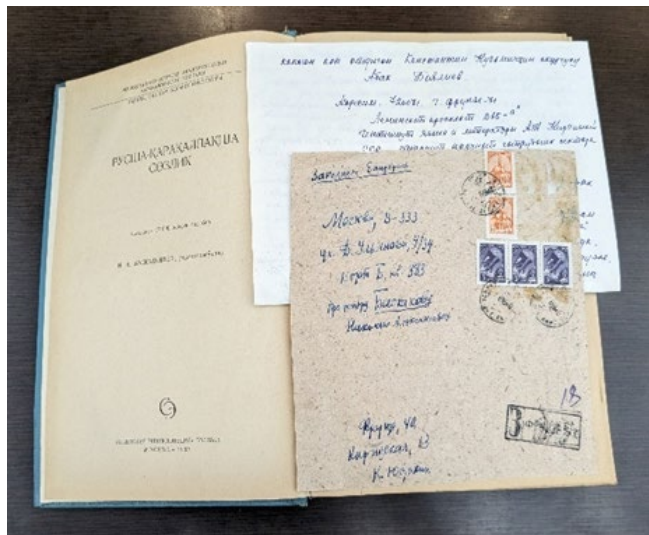
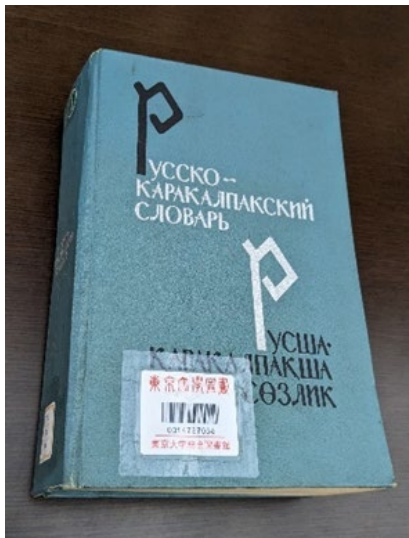
AKMATALIEVA Jakshylyk (アクマタリエワ ジャクシルク)

(U-PARL 特任研究員)

1. はじめに

人生はたくさんの「偶然な出会い」に満ちている。偶然と偶然が重なり合って幸せをもたらすことがある。この原稿を読むあなたはそんな経験をしたことがあるだろうか。筆者はこれまでに多くの出会いに恵まれ、本日に至っている。しかし、これほど体が震えるような偶然な出会いは経験したことがなかった。それが、東京大学に着任して間もない時期に出会った、ある一枚の手紙だった。

アジア研究図書館に所蔵されている辞典 *Русско-каракалпакский словарь* 『ロシア語・カラカルパク語辞典』(Баскаков 1967) に一枚の手書きの手紙が挟まっていたという。この辞典は、アジア研究図書館に配架するために、開館前の2019年度にベラルーシにある書店から取り寄せて購入したものである。取り寄せた時にRASARLの河原氏が手紙を見つけて保管しておいたという。筆者はその手紙を解読してほしいと依頼を受けた。筆者が最初に手紙を手にした時、手紙はきっとロシア語だろうと思った。しかし、手書きの手紙はロシア語でもなく、カラカルパク語でもなく、なんとキルギス語だった。



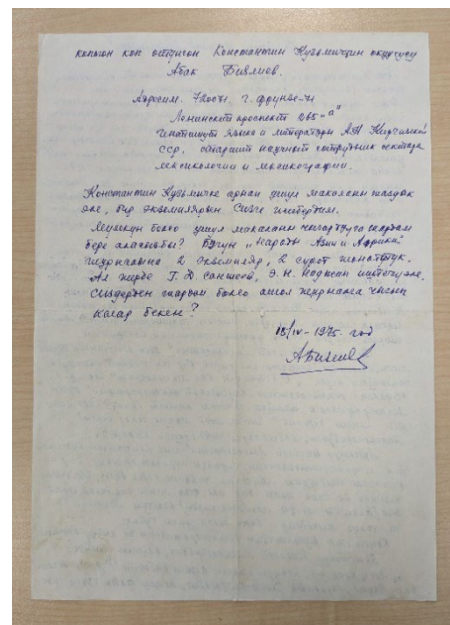
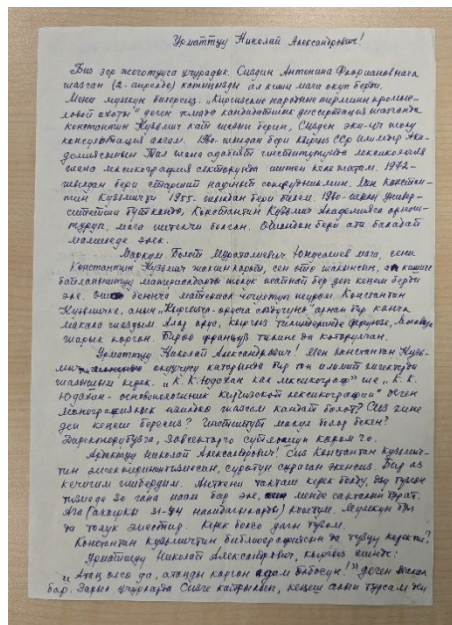
この辞典の編著者は Баскаков Николай Александрович (バスカコフ・ニコライ・アレクサンドロヴィチ。以下、バスカコフと記す。1905-1996) であり、そこに挟まっていたのは、バスカコフ氏宛の手書きの手紙と封筒の切り抜きであった。

つまり、この『ロシア語・カラカルパク語辞典』はおそらくバスカコフ氏自身が所有していたもので、編著者自身が所有していた辞典に自分への手紙を挟んでいたのではないかと想像を膨らませる。

そもそも、バスカコフ氏はどんな人物なのだろうか。バスカコフ氏は、ソビエト時代の言語学者である。特にチュルク諸語およびアルタイ諸語の専門家であり、チュルク系民族の言語を体系化したことで有名である (Баскаков 1966)。チュルク諸語研究者なら、彼の著書を一度は目にしたことだろう。彼はカラカルパク語だけではなく、ウイグル語、ノガイ語、ハカス語、アルタイ語、トルクメン語などのチュルク諸語の辞典の編纂に携わり、東京大学附属図書館にも多数の本が所蔵されている (文末リスト参照)。

2. 手紙の中身について

手紙の実物は次の写真の通りである。キリル文字で書かれており、キルギス語であるのは間違いない。



内容の正確な記録のため、この手紙を筆者が文字起こししたものが以下である。

Урматтуу Николай Александрович!

Биз зор жоготууга учурадык. Сиздин Антонины Флориановнага жазган (2-апрелде) катыңызды ал киши мага окуп берди. Мени мүмкүн билерсиз. “Киргизские народные термины промысловой охоты” деген темада кандидаттык диссертация жазганда Константин Кузьмич кат жазып берип, Сизден эки-үч жолу консультация алгам. 1960-жылдан бери Кыргыз ССР Илимдер Академиясынын Тил жана адабият институтунда лексикология жана лексикография секторунда иштеп келе жатам. 1972-жылдан бери

старший научный сотрудник мин. Мен Константин Кузьмичти 1955-жылдан бери билем. 1960-жылы университетти бүткөндө, Константин Кузьмич Академияга орноштуруп, мага жетекчи болгон. Ошондон бери ата баладай мамиледе элек.

Маркум Болот Мураталиевич Юнусалиев мага, сени Константин Кузьмич жакшы көрөт, сен өтө жакынсың, ал кишиге байланыштуу материалдарды толук жыйнай бер деп кеңеш берди эле. Ошо боюнча материал чогултуп жүрөм. Константин Кузьмичке, анын “Кыргызча-орусча сөздүгүнө” арнап бир канча макала жаздым. Алар орус, кыргыз тилдеринде Фрунзе, Москвада жарык көргөн. Бирөө француз тилине да которулган.

Урматтуу Николай Александрович! Мен Константин Кузьмичтин окуучусу катарында бир топ илимий эмгектерди жазышым керек. “К.К. Юдахин как лексикограф” же “К.К. Юдахин основоположник кыргызской лексикографии” деген монографиялык изилдөө жазсам кандай болот? Сиз эмне деп кеңеш бересиз? Институт макул болор бекен? Директорубузга, завсекторго сүйлөшүп көрөм го.

Ардактуу Николай Александрович! Сиз Константин Кузьмичтин эмгектеринин тизмесин, сүрөтүн сураган экенсиз. Бир аз кечигим жибердим. Анткени такташ керек болду, өзү түзгөн тизмеде 30 гана наам бар эле, менде сакталып турат. Ага (акыркы 31-44 наамдагыларды) коштум. Мүмкүн бул да толук эместир. Керек болсо дагы түзөм.

Константин Кузьмичтин библиографиясын да түзүү керекпи?

Урматтуу Николай Александрович, кыргыз элинде: “Атаң өлсө да, атаңды көргөн адам өлбөсүн!” деген макал бар. Зарыл учурларда Сизге кайрылып, кеңеш алып турсам деп көптөн көп өтүнгөн Константин Кузьмичтин окуучусу

Абак Биялиев

Адресим. 720071. г. Фрунзе-71

Ленинский проспект 265 “а”

Институт языка и литературы АН Киргизской ССР,
старший научный сотрудник сектора
лексикологии и лексикографии.

Константин Кузьмичке арнап ушул макаланы жаздык эле, бир экземплярын Сизге жибердим.

Мүмкүн болсо ушул макаланы чыгартууга жардам бере аласызбы? Бүгүн “Народы Азии и Африки” журналына 2 экземпляр, 2 сүрөт жөнөттүк. Ал жерде Г. Д. Санжеев, Э. Н. Наджип иштетчү эле. Сиздерден жардам болсо ошол журналга чыгып калар бекен?

18/IV-1975-год

筆者による日本語訳は次の通りである。

親愛なるニコライ・アレクサンドロヴィッチ！

我々は大きな損失を被りました。あなたのアントニナ・フロリアノブナへ書いた手紙（4月2日）を彼女は私に読んでくれました。あなたは私のことを覚えているのでしょうか。私が「商業

狩猟に関するキルギスの民俗用語¹」のテーマで学位論文を書いていたとき、コンスタンチン・クズミッチは（私のために）手紙を書いてくれて、あなたに 2-3 回相談したことがあります。1960 年以來、私はキルギス・ソビエト社会主義共和国科学アカデミー言語文学研究所の語彙学および辞書編纂学部門で働いています。私は 1972 年から上級研究員として勤めています。1955 年からコンスタンチン・クズミッチを知っています。1960 年に私が大学を卒業したとき、コンスタンチン・クズミッチは私をアカデミーに入れてくれ、指導教員になりました。それ以來、父と息子のような関係です。

故ボロット・ムラタリエヴィッチ・ユヌサリエフは、コンスタンチン・クズミッチはあなたのことが好きで、とても親しいので、彼に関する資料をすべて集めなさいと私にアドバイスしてくれました。それに関する資料を集めています。私はコンスタンチン・クズミッチと彼の『キルギス・ロシア語辞典』のため、記事をいくつか書きました。これらはモスクワでも、フルンゼ²でも、ロシア語とキルギス語で出版されました。フランス語に翻訳されたものもあります。

親愛なるニコライ・アレクサンドロヴィッチ！コンスタンチン・クズミッチの生徒として、私は多くの科学的著作を書かなければなりません。『K.K.ユダーヒンは辞典編著者』または『K.K.ユダーヒンはキルギス辞典編纂の創始者である』という原稿を書くのはどうでしょうか？あなたはこれに関してどう思いますか？研究所は同意するでしょうか？私もこちらの学長と副学長と話してみます。

親愛なるニコライ・アレクサンドロヴィッチ！あなたは、コンスタンチン・クズミッチの著作リストと写真を依頼されたそうですね。少し遅れています。なぜかという、確認する必要があるためです。彼（コンスタンチン・クズミッチ本人）が作成したリストは 30 項目しかないのです。それらに（最後の 31~44 項目）追加しました。もしかしたらこれでも不十分なのかもしれません。必要に応じてさらに作成します。

コンスタンチン・クズミッチの全書誌情報を作成する必要がありますか？

親愛なるニコライ・アレクサンドロヴィッチへ、キルギスの人々の間に「たとえあなたの父親が死んでも、あなたの父親を見た人が死なないように！」という諺があります。私はコンスタンチン・クズミッチの生徒です。必要なときはあなたにアドバイスを求めてもよろしいでしょうか。

アバク・ビヤリエフ

私の住所：720071 フルンゼ市-71

レニンスキー プロスペクト 265 "a"

キルギス・ソビエト連邦科学アカデミー言語文学研究所、
上級研究員・語彙学・語彙学部門

私たちはコンスタンチン・クズミッチのためにこの原稿を書きました。コピーをあなたに送りました。

この原稿の公開にご協力いただけますか？本日、雑誌『アジアとアフリカの人々』にコピー 2 部と写真 2 枚を送りました。そこで G. D.サンジェフ、E. N.ナジブ氏はかつて働いていました。あなたのご協力で会誌に載ったらいいのですが。

18/IV-1975 年

¹ 論文タイトルはロシア語。

² キルギス共和国の首都ビシケクの旧名。

まず、この手紙に登場する人物を紹介しておきたい。この手紙の特徴は、キルギス語の歴史に残る有名な研究者の名前が並ぶ生々しい手紙であるということだ。

手紙の宛先は Баскаков Николай Александрович (バスカコフ・ニコライ・アレクサンドロヴィチ) である。

手紙を書いた人は Биялиев Абак (ビヤリエフ・アバク) である。以下、ビヤリエフと記す。

手紙の中には次の 2 人の人物の名前もあがっている。

- ① Юнусалиев Болот Мураталиевич (ユヌサリエフ・ボロット・ムラタリエヴィッチ) (1913 年～1970 年 2 月 18 日) は、キルギス言語学の創設者の一人である。彼の著作の *Киргизская лексикология* 『キルギス語の語彙学』(Юнусалиев 1959)、*Кыргыз диалектологиясы* 『キルギス語の方言学』(Юнусалиев 1971) などが広く知られている。なお、彼は現在のキルギス国立総合大学の元学長である。
- ② Юдахин Константин Кузьмич (ユダーヒン・コンスタンチン・クズミッチ) (1890 年～1975 年 2 月 22 日) は、言語学、方言学、音声学者である。チュルク諸語の辞典の中でも極めて評価の高い *Киргизско-русский словарь* 『キルギス語・ロシア語辞典』(Юдахин 1965) を作成した人であり、現在のキルギス語記述に多大なる貢献した人物である。

手紙を書いたビヤリエフ氏は、キルギス語研究者であり、キルギス語の北部と南部を旅して方言学的な資料を収集し、*Кыргыз тилинин фразеологиялык сөздүгү* 『キルギス語の慣用句辞典』(1980)、*Кыргыз тилинин синонимдер сөздүгү* 『キルギス語の同義語辞典』(1984)、*Кыргыз тилинин түшүндүрмө сөздүгү* 『キルギス語解説辞典』(1985) などの作成に参加し、他にも多数の業績をもっている人物である。

時は 1975 年 4 月 18 日にさかのぼる。今から 50 年近く前のことだ。当時のキルギスの若き研究者であるビヤリエフ氏がチュルク語学でだれもが知る有名な研究者バスカコフ氏に当てた手紙である。

この手紙は Биз зор жоготууга учурадык 「我々は大きな損失を破りました」という訃報の文から始まる。この文を読んだだけで、「誰か偉大な人が亡くなった」ということが予測できる。しかし、この手紙の中には「誰がいつ亡くなったのか」は具体的には触られていない。おそらく手紙を書いている人物と受け取った人物は、名前を言わなくても通じる人物であることは間違いない。筆者は最初に読んだ時、ユヌサリエフ氏 (①) ではないかと思ったが、手紙が書かれた日付を確認すると「1975 年 4 月 18 日」となっていることから、ユヌサリエフ氏ではないと確信した。それは、ユヌサリエフ氏はこの手紙が書かれるずいぶん前 (1970 年 2 月 18 日) に亡くなっているからである。次に、手紙に上がっていたユダーヒン氏 (②) が亡くなった日を調べると「1975 年 2 月 22 日」であった。おそらく、ビヤリエフ氏はユダーヒン氏の死後間もない時期に手紙を書き、そこでユダーヒン氏が亡くなったことを「大きな損失」と表現したの

だと考えられる。なお、手紙の中でビヤリエフ氏は、①ユヌサリエフ氏と②ユダーヒン氏の直接の弟子であることについて触れている。

手紙の具体的な内容は、ビヤリエフ氏らが書いた原稿を学術雑誌に載せてくれないかという依頼である。筆者が最初にこの手紙を手にとった時、学術的な価値があるのではないかと期待した。しかし、内容は研究者の間ならではの掲載依頼だった。この手紙の学術的な価値はあえて言うならば、ないかもしれない。しかし、この手紙に、キルギス語の歴史に残る有名な研究者の名前が並んでいることは大変貴重である。さらに言えば、キルギス語研究だけでなく、モンゴル語の著名な研究者 Санжеев Гарма Данцаранович (サンジェフ・ガルマ・ダンツァラノヴィッチ) や、ウイグル語学の有名な研究者 Наджип Эмир Наджипович (ナジップ・エミル・ナジポヴィッチ) の名前も、手紙の最後に登場している。

また、この手紙からは、ソ連時代当時の学者たちの信頼や、研究への熱心な姿勢、恩師と弟子の関係などが窺え、時代を映すかのようなやり取りでもある点が興味深い。これを象徴するのは、キルギス人研究者が恩師の追悼に関わる原稿を書いて、ソビエト社会主義共和国連邦政府の中心であるモスクワへ送っていたということだ。キルギス共和国という独立国家になった今では考えられないことである。さらに、当時のロシア人研究者とキルギス人研究者の関係も見えてくる。キルギス語をロシア人が研究して、ロシア人が辞典を作るのをキルギス人たちはどう受け止めていたのだろうか考える。当時は、当たり前のことだったのかもしれない。

3. 切り抜きされた封筒について

次に切り抜きされた封筒を見てみよう。これは 2. で取り上げた手紙が入っていた封筒ではないと推測する。それには理由が 3 つある。

一つめは、2. で見てきたビヤリエフ氏の手紙と封筒の筆跡が異なっているからである。手紙と封筒は、おそらく別々の人物のものだろう。

次に二つめの理由は、この封筒に書かれている差出人が К. Юдахин (К. ユダーヒン) である点にある。この封筒の宛先は、Баскаков Николай Александрович (バスカコフ・ニコライ・アレクサンドロヴィチ) で、送り主は К. Юдахин (К. ユダーヒン) であり、封筒の文字は К. ユダーヒンによるものであると考えられる。そこで、この封筒がビヤリエフ氏の手紙とは関係がないと結論づけられる。もう一つの決定的な理由は、手紙の中で К. ユダーヒンの死について触れているからである。

ここから考えられるのは二つの可能性である。一つは、キルギス語が読めないだけだが、この封筒と手紙は同じ人物のものだと思いこみ、一緒に保管したのではないか。もう一つは、バスカコフ氏自身がビヤリエフ氏の手紙と К. ユダーヒン氏の封筒を切



り抜いて、自分が作った辞典に挟んでおいたのかもしれない。

4. 手紙の後日談と残された謎

筆者には手紙の内容で気になった点がいくつかあった。

まず、ビヤリエフ氏の手紙は、原稿を投稿する際の送付状であると上述した。そもそも、ビヤリエフ氏が書いた原稿は、その後、学術雑誌に載ったのだろうかという疑問が浮かぶ。すると、手紙の中で言及されていたとおり、*Народы Азии и Африки*『アジアとアフリカの人々』1975 年 4 号にビヤリエフ氏のオルスバエフ氏との共著で書かれた「Константин Кузьмич Юдахин (コンスタンチン・クズミッチ・ユダーヒン) 1890-1975」というタイトルで追悼記事が確かに掲載されていた。

しかし、この手紙の中で一つだけ解決できなかった点がある。それは、手紙の中で、一番、最初に登場する Антонина Флориановна (アントニナ・フロリアノブナ) という人物は誰だったかは分からないまま残った。

5. この一枚の手紙と筆者とのつながり

この原稿を書く筆者のアクマタリエワが「体が震える」ほど驚いたもう一つの理由は、手紙を書いた人物ビヤリエフ氏とキルギスで一度だけ会ったことがあるということだ。それも偶然の出会いであった。筆者は、キルギス語研究に関する本を探しに 2008 年 6 月 13 日にキルギス国立大学言語学研究室を訪れたことがある。その研究室にはビヤリエフ氏がいて、本を探している趣旨を説明した。しかし、ちょうどその時、ビヤリエフ氏は急いでどこかに出かける様子だった。ビヤリエフ氏は「タクシーを呼んでしまったので、タクシーの中で教えてあげるから、君も乗りなさい」と言い、ビヤリエフ氏と同じタクシーに乗り込んだのを覚えている。タクシーの中でビヤリエフ氏は私にキルギス語研究について熱心に教えてくださった。その時に撮った貴重な一枚の写真が残っている。このようにビヤリエフ氏との出会いはタクシーの中での数分間だけだった。その後、ビヤリエフ氏には会ったことはない。



〈写真 1〉左：ビヤリエフ氏と右:アクマタリエワ キルギス共和国ビシケク市 2008 年 6 月 13 日

この手紙の解説を頼まれてから、ビヤリエフ氏と連絡を取ろうと試みたところ、ビヤリエフ氏の長男と連絡が取れた。ビヤリエフ氏は現在 86 歳でご健在であった。ただし、高齢なので、インタビューなどに応じられる状態ではないと聞かされた。ビヤリエフ氏の長男の方に「東京大学附属図書館で 50 年前のビヤリエフ氏の自筆の手紙が見つかったので、それだけ伝えてほしい。そして、その手紙の公開について同意していただきたい」と頼んだ。すると翌日、ビヤリエフ氏の長男からは、「父は手紙公開に同意している」という返事をいただいた。さらに、「父は確かに K. ユダーヒン氏の弟子である。それには間違いない」と次の写真（写真 2）が送られてきた。

筆者はビヤリエフ氏に、この手紙を書いた当時のロシア人研究者とキルギス人研究者の関係について尋ねてみたかった。当時、キルギス語をロシア人が研究して、ロシア人が辞典を作ることをキルギス人研究者たちはどう受け止めていたのだろうかを聞きたかったが、勝手に想像を膨らませるしかない。さらに、大きな疑問として、ロシア人のバスカコフ氏に対して、いくら彼がチュルク諸語研究の大家であったとしても、なぜロシア語ではなくキルギス語で手紙を書いたのか、という点を不思議に思う。手紙の中で触れられたビヤリエフ氏の論文がロシア語であったように、ソ連時代当時の言語政策のもとでは、ロシア語が圧倒的に優位にあったと考えられるからである。



〈写真 2〉左上の男性がビヤリエフ氏、中央の男性は K. ユダーヒン氏（撮影時期不明）

6. さいごに

「世界は広いようで狭い」という諺の意味を改めて痛感した一枚の手紙だった。今回の手紙との出会いは、単なる偶然なのか、必然的なことなのかは分からないが、筆者にとっては、ある意味で不思議な話である。このことを記憶と記録に残しておきたいという思いでこの原稿の執筆に当たった。

※本原稿に登場する研究者らの代表的な参考文献リスト（東京大学附属図書館所蔵情報）

1. Баскаков Николай Александрович (1963) *Ногайско-русский словарь: около 15000 слов*,

- Москва: Гос. изд-во иностранных и национальных словарей. (文・言語、W:D4:9200)
2. Баскаков Николай Александрович (1964) *Русско-алтайский словарь : около 33000 слов*, Москва: Изд-во Советская Энциклопедия. (文・言語、W:D4:9200)
 3. Баскаков Николай Александрович (1966) *Тюркские языки*, Москва: Наука. (文・言語、3 号館 D4:265)
 4. Баскаков Николай Александрович (1967) *Русско-каракалпакский словарь: около 47000 слов*, Москва: Изд-во Советская Энциклопедия. (アジア研究図書館、R 5:kaa:bas)
 5. Баскаков Николай Александрович (1969) *Введение в изучение тюркских языков*, Москва: Издательство "Высшая школа". (文・言語、3 号館 D4:288)
 6. Биялиев А.; Орузбаев А. (1975) *Константин Кузьмич Юдахин (1890—1975)*, Народы Азии и Африки: история, экономика, культура. Академия наук СССР. Институт народов Азии, Институт Африки. № 4. стр. 246-248. (東文研・図、RZ:52)
 7. Биялиев Абак Биялиевич (2000) *Кыргыз диалектологиясы* (ЖОЖдун студенттери үчүн окуу куралы), Бишкек.
 8. *Кыргыз тилинин фразеологиялык сөздүгү* (1980) Фрунзе: Илим.
 9. *Кыргыз тилинин синонимдер сөздүгү* (1984) Фрунзе: Илим.
 10. *Кыргыз тилинин түшүндүрмө сөздүгү* (1985) Фрунзе: Илим.
 11. Наджип Эмир Наджипович (1968) *Уйгурско-русский словарь: около 33000 слов*, Москва: Изд-во Советская Энциклопедия. (文・東史、3 号館 G:10:29)
 12. Санжеев Гарма Данцаранович (1960) *Современный монгольский язык*. Москва: Изд-во восточной лит-ры. (文・言語、3 号館 D5:110:7843)
 13. Юдахин Константин Кузьмич (1965) *Киргизско-русский словарь : около 40000 слов*, Москва: Изд-во Советская Энциклопедия. (アジア研究図書館、R 5:kir:iud)
 14. Юнусалиев Болот Мураталиевич (1959) *Киргизская лексикология*. Часть 1. Фрунзе.
 15. Юнусалиев Болот Мураталиевич (1971) *Кыргыз диалектологиясы*. Фрунзе.

アジア研究図書館利用案内

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia/user-guide>

場 所	総合図書館4階
開館日／閉館日	総合図書館の開館日・閉館日に準じます。
開館日	以下閉館日を除くすべての日
閉館日	年末年始(12月28日～1月3日) 定例休館日(おおむね毎月第4木曜日) 夏季の一斉休業日(2日間) 試験等大学行事のための閉館日 その他臨時閉館日

開館時間

	曜日等	通常期	8月・3月
	月～金曜日	9:00～22:30	9:00～21:00
	土・日・祝日	9:00～19:00	9:00～17:00

学外の方もご利用いただけます。詳しくはホームページをご覧ください。

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/user-guide/outside/gakugai>

次号の予定

第17号は令和6年10月1日に発行予定です。

ニューズレターへの情報提供、投稿や、記事へのご要望があれば、東京大学アジア研究図書館([asialib\[at\]lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:asialib[at]lib.u-tokyo.ac.jp))までお知らせ下さい。

編集後記

第16号をお届けします。

早いもので、年4回発行しているこのニューズレターも、ついに4年目の終わりを迎えることになりました。3号雑誌になることなく刊行を続けてこられたのも、ご寄稿いただいた皆様のご尽力のおかげです。改めまして、心から感謝申し上げます。(J)